

経営比較分析表

山梨県 道崎市

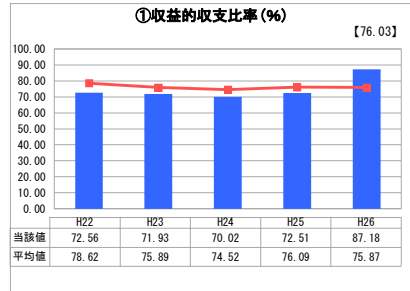
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	8.93	1,940

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,752	143.69	214.02
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,738	7.09	386.18

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



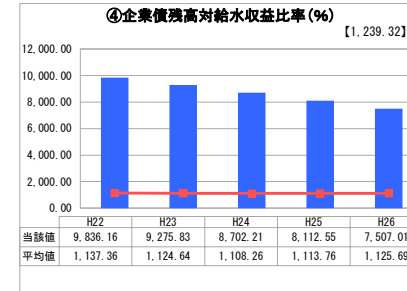
「単年度の収支」



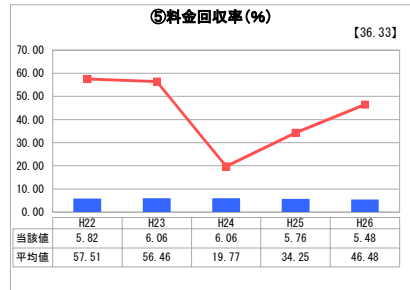
「累積欠損」



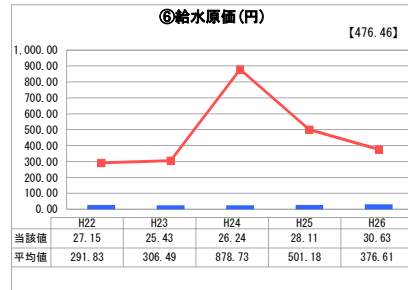
「支払能力」



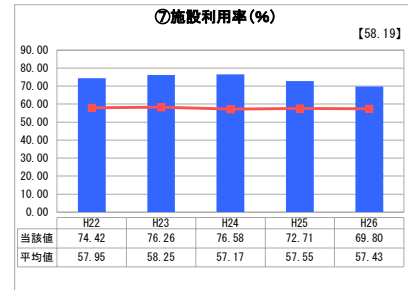
「債務残高」



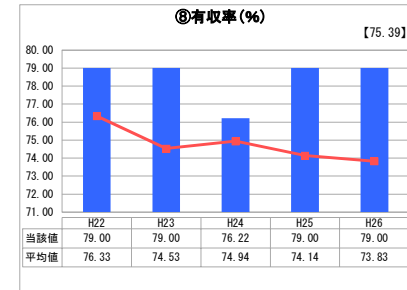
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

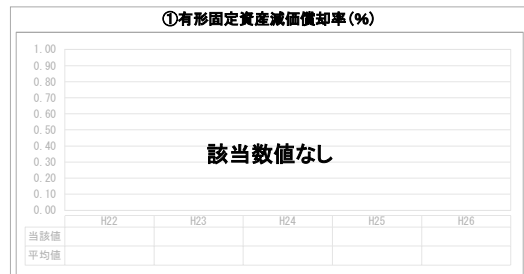


「施設の効率性」

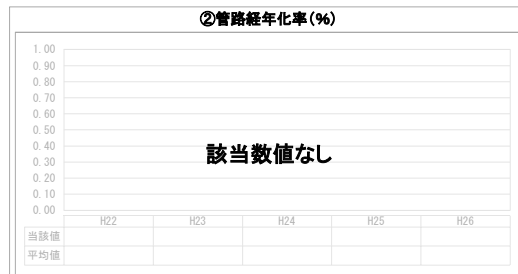


「供給した配水量の効率性」

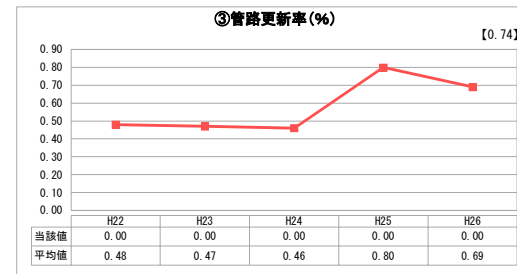
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率についてはH22年からH25年までは平均値をやや下回っていたがH26年については平均値を上回った。企業債残高対給水収益比率については企業債の主な要因は腹る過施設建設に伴うものであり返済が完了するまではこの傾向が続くものと思われる。料金回収率については安価な料金体系であるため低くなっている。給水原価については有収水量1mあたりの単価が平均値よりかなり低く抑えられている。施設利用率は平均値より高くなっており施設が遊休状態でないといえる。有収率についても平均値より高くなっており施設の稼働が収益につながっているといえる。今後は給水人口減少による給水収益の減少が予想されるため経営の健全性を図るためには上水道への統合を視野に入れていく必要があると思われる。

2. 老朽化の状況について

施設の老朽化については中間地域整備事業を利用し施設の更新を行っていく状況である。

全体総括

経営の健全性・効率性については良い状況であるといえる。今後も健全で効率的な経営を行っていく必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。